

平成30年度 りんご病害虫防除暦(改正)

【表示されている農薬の使用基準は平成29年11月末現在の登録内容です】

JA佐渡りんご倶楽部

回数	散布時期	実施日	主な対象病害虫	10a散布量成木(SS)に	薬剤名および散布濃度	水10.0L当たり薬量	収穫前日数	使用回数	使用上の注意
1	発芽～3週間以内	/	ハダニ類	300	ハーベストオイル 200倍	500 ml	-	-	前年ハダニが多発した場合は実施する。
			黒星病		ベフラン液剤25 1500倍	66 ml	前日	3	混用順は①ハーベストオイル②ベフラン液剤25とする。 ※展葉後は3週間以内に散布のこと(葉害の恐れあり)
2	4月下旬 (開花直前)	/	黒星病、うどんこ病	300	インダーフロアブル 5000倍	20 ml	14	3	インダーフロアブルの代わりに、トリフシ水和剤3000倍(前日/3回)でもよい。
			シンクイムシ類、ハマキムシ類、キンモンホソガ、ケムシ類		サムコルフロアブル10 5000倍	20 ml	発生初期(前日)	3	リンゴハダニは生育前半に発生するので前年発生した園地ではダニ剤(ハロックフロアブル)2000倍(14日前/2回)を混用散布する。
3	5月上～中旬 (落花直後)	/	斑点落葉病、黒星病、黒点病、褐斑病、うどんこ病	400	テーク水和剤 800倍	125 g	30	3	花腐れに注意。開花期から落花15日くらいまでは展着剤は使用しない
			リンゴハダニ、ナミハダニ、キンモンホソガ、キンモンホモグリガ、ハマキムシ類		カスケード乳剤 2000倍	50 ml	14	2	※カスケード乳剤に替えてサムコルフロアブル10 5000倍(収穫前日、3回まで)でもよい
					クレフノン 80倍加用	1,250 g	-	-	
臨時	5月中旬	/	黒点病	400	オーソサイド水和剤80 800倍	125 g	14	6	黒点病多発園は臨時散布する。
4	5月下旬 (落花10～15日後)	/	斑点落葉病、黒星病、黒点病、褐斑病、すす点病、炭疽病、輪紋病	400	アントラコール顆粒水和剤 500倍	200 g	45	4	※この時期に越冬カメムシの発生が懸念されるので、注意し、臨時防除情報に注意する。 ※花腐れに注意。開花期から落花15日くらいまでは展着剤は使用しない
			シンクイムシ類、ハマキムシ類、ケムシ類、リンゴワタムシ		ダースバンドF 3000倍	33 g	45	1	※シンクイムシ、ハマキムシ対策としてフェロモン剤 コンフューザーNを200本/10a設置する ※クレフノンの代わりにバイカルティ1000倍でもよい
					クレフノン 80倍加用	1,250 g	-	-	※昨年、ハダニが多かった園地ではダニ剤(ハロックフロアブル)2000倍(収穫前日、1回まで)を加用散布する。
5	6月上旬	/	斑点落葉病、黒星病、黒点病、褐斑病、炭疽病	500	デランフロアブル 2000倍	50 ml	60	3	
			シンクイムシ類、ハマキムシ類、リンゴワタムシ		バリアート顆粒水和剤 2000倍	50 g	前日	3	※バリアート顆粒水和剤に替えて、スタークル顆粒水溶剤2,000倍でもよい。(前日、3回まで)
					クレフノン 80倍加用	1,250 g	-	-	※クレフノンの代わりにバイカルティ1000倍でもよい
6	6月中旬 (落花30日後)	/	斑点落葉病、黒星病、黒点病、褐斑病、すす点病、炭疽病、輪紋病	500	オキシラン水和剤 500倍	200 g	14	4	リンゴワタムシ多発園ではダイアジノン水和剤に替えてウララD F 2,000倍(14日/2回)を混用散布する。
			ハマキムシ類、アブラムシ類、キンモンホソガ、ナシヒメシジミ		ダイアジノン水和剤34 1000倍	100 g	30	4	※開花後1ヶ月後の散布とする。(葉害軽減の為) ※ダイアジノン水和剤に替えてオリオン水和剤40 1000倍(前日、2回まで)でもよい。
					クレフノン 80倍加用	1,250 g	-	-	※クレフノンの代わりにバイカルティ1000倍でもよい
					展着剤	- ml			
7	6月下旬	/	斑点落葉病、黒星病、黒点病、褐斑病、すす点病、炭疽病、輪紋病	500	チオックフロアブル 500倍	200 ml	30	5	シンクイムシ被害が多発している樹ではこのころから袋かけを行うなどの対策をとる。
			シンクイムシ類、キンモンホソガ、キンモンホモグリガ、ハマキムシ類、コカイラムシ類、アブラムシ類		スタークル顆粒水溶剤 2000倍	50 g	前日	3	
8	7月上旬	/	斑点落葉病、黒星病、褐斑病、すす点病、炭疽病、輪紋病	500	ビオネト 1000倍	100 g	14	4	
			アブラムシ類、ハマキムシ類、リンゴワタムシ、キンモンホモグリガ、コカイラムシ類		スプラサイト水和剤 1500倍	66 g	30	2	
臨時	7月上中旬	/	シンクイムシ類、キンモンホモグリガ、キンモンホソガ、ハマキムシ類、ケムシ類	500	フェニックスフロアブル 4000倍	25 g	前日	2	特にシンクイムシ多発園では臨時散布する。
9	7月中旬	/	斑点落葉病、黒星病、黒点病、褐斑病、すす点病、炭疽病、輪紋病	500	フリントフロアブル25 3000倍	33 ml	前日	4	
			ハダニ類		コロマイト乳剤 1000倍	100 ml	前日	1	
			シンクイムシ類、アブラムシ類、キンモンホモグリガ、コカイラムシ類、ケムシ類		ダントツ水溶剤 4000倍	25 g	前日	3	
10	7月下旬	/	斑点落葉病、黒星病、黒点病、褐斑病、すす点病、炭疽病、輪紋病	500	オーソサイド水和剤80 800倍	125 g	14	6	
			アブラムシ類、キンモンホモグリガ、キンモンホソガ、シンクイムシ類		アグロソリン水和剤 2000倍	50 ml	前日	2	この時期以降、早生種のある園地では収穫前日数に気をつけて防除する。
					展着剤	- ml			
11	8月上旬	/	黒星病、黒点病、褐斑病、すす点病、輪紋病	500	トップジンM水和剤 1500倍	66 g	前日	6	
			リンゴハダニ、ナミハダニ		ダニサラバフロアブル 1000倍	100 ml	前日	2	収穫期防除は展着剤は使用しない。
臨時	8月上旬	/	キンモンホモグリガ、キンモンホソガ、ケムシ類、シンクイムシ類、ハマキムシ類		サムコルフロアブル10 2500倍	40 ml	前日	3	
12	8月中下旬	/	斑点落葉病、黒星病、褐斑病、すす点病、輪紋病	500	ベフラン液剤25 1500倍	66 ml	前日	3	
			アブラムシ類、シンクイムシ類、キンモンホソガ、コカイラムシ類、ハマキムシ類、リンゴワタムシ		モスピラン顆粒水溶剤 4000倍	25 g	前日	3	
臨時	8月中下旬	/	ハダニ類	500	ダニコングフロアブル 2000倍	50 ml	前日	1	ダニの発生が見られる場合は単用散布する。
13	9月上旬	/	斑点落葉病、黒星病、黒点病、褐斑病、すす点病、うどんこ病	500	フルツイパー 2000倍	50 ml	前日	3	
			シンクイムシ類、ハマキムシ類、キンモンホソガ、アブラムシ類		ロテイト水和剤 1500倍	66 g	前日	2	
14	9月中下旬	/	斑点落葉病、黒星病、褐斑病、すす点病、輪紋病	500	ベフラン液剤25 1500倍	66 g	前日	3	
			シンクイムシ類、アブラムシ類、キンモンホモグリガ、コカイラムシ類、ケムシ類		ダントツ水溶剤 4000倍	25 g	前日	3	
臨時	9月中下旬	/	ハダニ類	500	スターマイトフロアブル 2000倍	50 ml	前日	1	ダニの発生が見られる場合は単用散布する。
15	10月上旬	/	褐斑病、すす点病	500	ナリアWDG 2,000倍	50 g	前日	3	

※薬剤混用の順序 水 → 展着剤 → 乳剤 → フロアブル剤 → 水和剤(ボルドー体系の場合はボルドー調合後に展着剤→殺虫剤の順に混用する)

※農薬使用にあたっては商品のラベル表示を再度確認し、希釈濃度、収穫前日数を間違えないようご注意ください。

※昨年度と一部使用農薬が変更となっていますが、在庫農薬を確認し期限切れのおそれがある場合は、登録の範囲内で在庫農薬を優先的に使用してください。

※農薬使用の履歴は出荷生産者の義務です。適正な農薬使用をする上でも、毎回使用農薬の希釈濃度、散布量、実施日を記録してください。

◎りんごの摘果剤利用の場合（満開日を調べておく：散布時期を適期に実施してください。※なお摘果剤としては1回しか使用できません）

対象品種：ふじ、つがる、陽光、さんさ、王林他（デリシャス系には使用しない）

※周囲作物への農薬飛散防止に努めましょう。（りんご以外に農薬がかからないよう注意しましょう）

散布時期	薬剤名	散布濃度	10a散布量成木	水100L当たり薬量
満開後 10～14日頃	中心果横径 6.5～7.0mm	ミクロデナボン水和剤 1200倍 ニーズ(展着剤) 1000倍加用	手散布500L SS400L	ミクロデナボン水和剤 83g ニーズ(展着剤) 100cc
満開日（2回目散布は2～3日後）	(摘花剤)	エコルーキー 100～150倍	SS400L	エコルーキー 670g～1000g
満開後（2回目散布は3～4日後）	(摘花剤)	石灰硫黄合剤 100～120倍	SS400L	石灰硫黄合剤 830～1000ml

※摘花剤をSS散布での場合は、低回転で行う。

◎りんご落果防止剤利用の場合（散布時期を適期に実施ください。散布後に降雨があっても、再散布はしないでください。）

散布時期	薬剤名	散布濃度	10a散布量成木	水100L当たり薬量と使用上の注意
収穫予定25日前 ※（追加散布を要する場合は収穫15日前）	ストップボール液剤 展着剤を使用する。	1500倍	手散布500L SS400L	ストップボール液剤 67cc 基本的には単用散布とする。 対象品種：つがる、デリシャス系、紅玉
収穫予定21～7日前に1回散布する。	ヒオモン水溶剤 展着剤を使用する。	1000倍	手散布500L SS400L	ヒオモン水溶剤 100g 基本的には単用散布とする。 対象品種：つがる

◎りんごダニ剤 ※下記薬剤は基本的に年間1回とし、数種類でローテーションをさせてください。

薬剤名	登録害虫	使用倍率	収穫前日数	使用回数	特徴
ダニゲッターフロアブル	リンゴハダニ、ナミハダニ、リンゴサビダニ	2000倍	前日	1	卵、幼虫、若虫に高い効果あり。成虫に対しては遅効的
カネマイトフロアブル	リンゴハダニ、ナミハダニ	1000倍～1500倍	7日前	1	ハダニに各発育ステージ（卵、幼虫、若虫、成虫）に対して高い効果があります。
ダニサラバフロアブル	リンゴハダニ、ナミハダニ	1000倍	前日	2	ハダニに各発育ステージ（卵、幼虫、若虫、成虫）に対して高い効果があります。
コロマイト乳剤	ハダニ類、キンモンホソガ、ユキヤナギアブラムシ	1000倍	前日	1	成虫、卵、幼虫に対して効果が高い。（キリフダ剤）
スターマイトフロアブル	ハダニ類	2000倍	前日	1	既存薬剤に抵抗があるハダニにも優れた効果を示す。（キリフダ剤）
マイトコーネフロアブル	リンゴハダニ、ナミハダニ	1000～1500倍	前日	1	成虫、幼虫に高い活性を示す。（キリフダ剤）
ダニコングフロアブル	ハダニ類	2000倍	前日	1	既存薬剤に抵抗があるハダニにも優れた効果を示す。新規剤

◎りんご展着剤 ※場面により使用する展着剤を選択ください。

展着剤名	有効成分と特性	散布倍率	水100Lあたり薬量	注意事項
ネオエステル	ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル系（界面活性剤）	5000～20000倍	20～5ml	本剤を先に溶かしてから薬剤を希釈する（最初に入れる）
アピオンE	パラフィン展着剤（乳化性と表皮保護に優れる）	1000倍	100ml	本剤を先に溶かしてから薬剤を希釈する（最初に入れる）
ブレイクスルー	シリコン系展着剤（高い拡張性、汚れ軽減効果、散布後の乾きの速さに優れる）	5000～10000倍	20～10ml	薬剤調整後に本剤を加え攪拌する（最後に入れる）

◎りんごカルシウム葉面散布剤

薬剤名	成分	散布倍率	水100Lあたり薬量	特徴と注意事項
バイカルティ（晃栄化学）	カルシウム肥料（ギ酸カルシウムCA034%）	1000倍	100g	ビタービット、コルクスポット防止（生理障害防止）。樹勢コントロール、徒長抑制、果肉の軟化・褐変防止（白く汚れない。）落花後10日以降に10日間隔で（薬剤防除と同時）散布

◎りんごアミノ酸葉面散布剤

薬剤名	成分	散布倍率	水100Lあたり薬量	注意事項
富味ナール	海洋魚からの抽出エキス（アミノ酸）	500倍	200g	使用時期：満開後30, 80, 100, 120日目を目安に葉面散布。糖蓄積量を高め、果実の味と色の向上への効果が期待できます。（アルカリ性農薬との混用はできません。）